

新最終処分場の整備等に関する住民説明会（第10回）開催後に寄せられたご意見

※ ご意見の内容は、要約してまとめておりますのでご了承ください。

区分	ご意見の内容	回 答
新一般廃棄物最終処分場	最終処分場候補地周辺の現況の地価（路線価）について、将来の比較のために調査が必要ではないか。地価の調査は生活環境に含まれるべきである。	新最終処分場周辺の土地の価格に関する調査については、生活環境に直接影響するものではないため、生活環境影響調査には含まれません。なお、将来にわたる土地の評価、予測は困難と考えます。
新一般廃棄物最終処分場	最終処分場候補地周辺は、地すべり等の指定はどのようになっているのか。	候補地は、現在までに洪水浸水想定区域の指定及び土砂災害警戒区域などの指定はともに受けていません。 現在、県による土砂災害警戒区域の見直しが行われていますが、県の見直しは、地図上から「土砂災害が発生するおそれのある箇所」を抽出し、その後、現地調査を行った上で、指定するかどうかの判断をするものと伺っております。なお、「千厩字北ノ沢ほか」については、当組合において、専門家が現地に足を運び、現況を確認した上で適地と判断していることから、問題は生じないものと捉えています。
新一般廃棄物最終処分場	廃棄物の運搬車両は街を通り、市道構井田鳥羽線を通るとのことだが、1日4～5往復が30年間続くことになる。 反対している方々は、廃棄物運搬の車が何回も目の前を通ると感じが悪いと話しており、かなりの風評被害が出ると予想している。 千厩町内の飲食店も廃棄物運搬車が街を通るとなれば生活環境がかなり悪くなる。その時、組合ではどのように対応・支援を考えるのか。	最終処分場に搬送される廃棄物は、主に焼却灰や不燃物です。運搬車両には廃棄物が飛散しないよう「あおり」と呼ばれるもので覆うなどの対策を行います。なお、運搬時の灰は水分が含まれているため飛散しにくいものとなっています。 また廃棄物の運搬は、通勤や通学の時間帯を避けるなどの対策を取ることで、生活への影響をできる限り低減することを考えています。
新一般廃棄物最終処分場	最終処分場への運搬について、街や市道構井田鳥羽線を通らない道路を整備すべきである。 新しい道路や公園、図書館ができる反対の人も少なくなると思う。	市道や図書館などの整備については一関市で行うものであることから、ご意見については市と情報共有してまいります。
新一般廃棄物最終処分場	最終処分場のような施設は、本来、人家の少ない、学校や事業所などから離れた場所にあった方が望ましいと思う。どうして北ノ沢が候補地になったのか。生活環境の保全に配慮していないと思う。	候補地の選定経過については、これまでの住民説明会でお知らせしてきたとおりです。

区分	ご意見の内容	回 答
新一般廃棄物最終処分場	<p>昨年、岩手県の洪水浸水想定区域に千厩川が指定され、各戸にハザードマップが配布された。最終処分場建設がいかに危険なものか認識し、再検討の上、都市計画区域外に速やかに建設地の変更を要望する。</p> <p>いままで大雨洪水では、千厩川が氾濫するたびに川崎町の国道284号が通行止めになる。このことから北上大橋より弥栄方面に処理施設を設ける場合には、大橋より千厩方面には処分場は設けるべきではない。</p>	<p>最終処分場は、埋立地、水処理施設、防災調整池でそれぞれ降雨に伴う水量を調整し、大雨などの災害時においても河川への影響を出来る限り少なくするよう計画しています。そのことから、最終処分場建設により、千厩川が危険になるということはありません。</p> <p>なお、国道284号の一部が通行できない場合は、通行可能な道路を迂回して運搬することとなります。</p>
新一般廃棄物最終処分場	<p>最終処分場に埋立する焼却灰、残渣などにカドミウム、水銀などの重金属が残っている。これらは水に溶けやすい性質で露地に放置すると、地下浸水し大変危険である。</p> <p>町の中央部を流れる千厩川は、洪水浸水想定区域に指定されている。河川が氾濫したら周囲の道路、宅地、農地などに有害物質が流出することが憂慮されるので、千厩川の上流である北ノ沢の候補地は絶対に避けるべきである。</p> <p>北ノ沢の候補地は、山全体を千厩町の自然公園にし、子供達の遊具設備を設け、親子、家族で1日楽しめる施設を設けていただきたい。</p>	<p>現在計画しているオープン型の最終処分場は、埋立された廃棄物に浸透する雨水を水処理施設で安全な水質に処理し河川に放流する施設であり、法令及び基準に基づいた適切な処理を行うことにより生活環境に影響を及ぼすことはないものと考えています。また、最終処分場の埋立地は遮水シートを二重に敷設し、水が漏洩していないか検知システムにより管理することとしています。万が一、一方のシートが破損した場合でも、迅速に破損箇所を特定し、外部に漏水する前に修繕することが可能となります。</p> <p>最終処分場は、埋立地、水処理施設、防災調整池でそれぞれ降雨に伴う水量を調整し、大雨などの災害時においても河川への影響を出来る限り少なくするよう計画しています。そのことから、最終処分場建設によって千厩川が危険になるということはありません。</p> <p>最終処分場では緩衝緑地帯を設けることとしていることから、今後、周辺住民の方々と活用方法について話し合いをしてみたいと考えています。</p>